

病害虫発生予察技術情報について

令和4年度 病害虫発生予察技術情報 第9号を公表しましたので送付します。

令和4年度 病害虫発生予察技術情報 第9号

カンシャコバナネナガカメムシ(ガイダー)の防除適期について

カンシャコバナネナガカメムシは葉鞘や未展開葉部に潜み、集団で吸汁加害する。1茎当たり虫数が20頭を超えるほ場や、一斉防除を行う地域では、防除適期を失しないよう注意する。

1 防除適期予想日

- (1) 沖縄本島中南部における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は1.3頭(前年0.9頭、平年1.2頭)と平年並であった。齢期は3月9日時点で2.0齢であった。
- (2) 宮古島における3月下旬の調査の結果、茎当たり虫数は3.1頭(前年0.2頭、平年1.0頭)と多であった。齢期は3月23日時点で1.7齢であった。
- (3) 石垣島における3月上旬の調査の結果、茎当たり虫数は0.4頭(前年0.6頭、平年1.8頭)と平年並であった。齢期は3月9日時点で1.4齢であった。
- (4) 防除適期予想日(3月14日現在、宮古島及び周辺離島のみ3月24日現在)

地 域	防除適期	2.5 齢期予想日		
		本年	平年	平年差
沖縄本島及び周辺諸島	4月9日 ~ 4月23日	4月16日	4月21日	5日早い
南・北大東島	4月6日 ~ 4月20日	4月13日	4月17日	4日早い
宮古島及び周辺離島	3月31日 ~ 4月14日	4月7日	4月12日	5日早い
石垣島及び周辺離島	3月29日 ~ 4月12日	4月5日	4月6日	1日早い
与那国島	4月1日 ~ 4月15日	4月8日	4月9日	1日早い

\* 2/1~3/13は観測値、3/14からは平年値を使用。宮古島及び周辺離島のみ2/1~3/27は観測値、3/28からは平年値を使用(沖縄気象台発表)。

2 生態

- (1) 集団で葉鞘や鞘頭部に潜み吸汁加害する。
- (2) 年2~3回発生し、成虫ないし卵で越冬する。
- (3) 成虫には長翅型と短翅型がある。長翅型は高温・高密度で出現し、夏から秋にかけて移動分散を行う(図1)。
- (4) 前年の秋、冬に産み付けられた卵は3~4月にふ化し、第1世代目となる。
- (5) おおむね4~6月が第1世代、7~8月が第2世代、9~10月に第3世代が発生する(図2)。



図1.カンシャコバナネナガカメムシの短翅型成虫と幼虫

3 防除上注意すべき事項

- (1) この時期に茎当たり虫数が20頭を超えるほ場は防除を行うことが望ましい。
- (2) 薬剤防除の際は、周辺住宅地や隣接ほ場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

## 【参考資料】

### 1. 防除適期とは

カンシャコバネナガカメムシの防除は、農薬の効きにくい卵や成虫がいない時期が最適です。卵は2月下旬頃からふ化し始め、4月中旬から下旬にほとんどふ化し終わり、その数週間は成虫もほとんどおらず、さとうきびの草丈も低いため農薬散布するのに適しています。

下の図の赤い部分が最も薬剤散布に適した時期です。この時期は卵がすべてふ化する時期を予測することで算出されます。2月1日を起点として、日平均気温が  $13^{\circ}\text{C}$  を上回った温度(2月1日が  $16.4^{\circ}\text{C}$  だった場合は  $3.4^{\circ}\text{C}$ )を累積し、 $480^{\circ}\text{C}$  を超えた日が防除に最適の日となります。その前後1週間が防除適期に含まれます。また、この予想日に発生する幼虫の齢が平均2.5になるため、予報資料では「2.5 齢期予想日」という表現になっています。

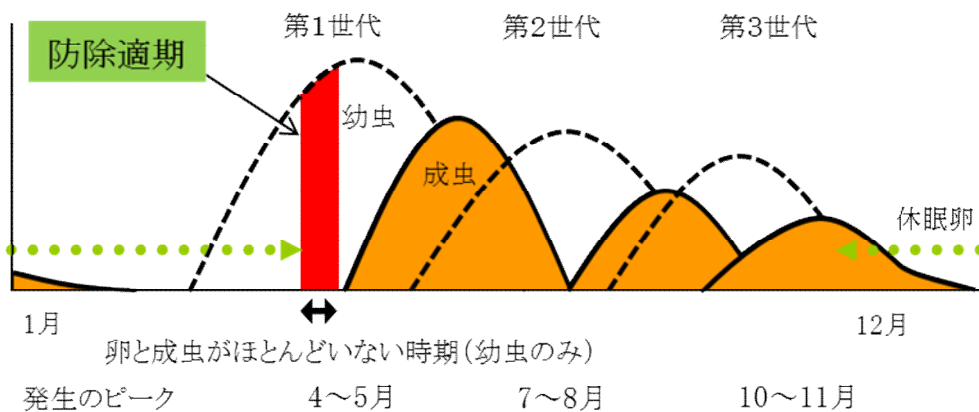


図2.カンシャコバネナガカメムシのステージごとの発生ピークと防除適期

### 2. 密度

4月中～下旬の防除適期に発生量を確認し、一茎当たり20頭以上のカンシャコバネナガカメムシが確認された場合は、農薬散布を行う。